

.....編集後記.....

◆蟬が地上での短い命を歌う声を聞くと暑さが倍加する季節ですが、いかがお過ごしでしょうか。

◆8月5日から7日にかけて2泊3日のサイエンスキャンプが行われました。電子顕微鏡での微化石の観察や偏光顕微鏡での薄片観察、花崗岩や堆積岩の野外観察と化石採取を行いました。大変暑い日でしたが、参加した高校生は大変楽しかったようです。特に、学校で教えない世界に触れて感激したようです。後日、次も参加したいとのたくさんのラブレター?をいただき感激しております。日本全国でこのような行事を行えば地質学の裾野が広がるのではないのでしょうか。

◆さて、今月号は「生活環境と地質Ⅳ」の特集記事を中心に紙面を構成しました。

釜井氏の「都市の斜面災害」は日常生活と地質の関係が解り易く説明されており、特に、終りの一文は地質情報の普及の重要性を説明して余りあるものがあります。是非、ご一読下さい。

中里氏の巨大地すべりの話も解り易く、日本の地すべりは過去の地すべりの再活動であり、生活との関連が指摘されています。皆さんの周辺の地形を見回して見ることは、転ばぬ先の杖かもしれません。

日本は火山国です。川辺氏は火山とのつきあいか

たを書いてくれています。この一文の中で、火山の被害情報が十分に活用されなかったため、多くの人命が失われたことが指摘されています。この記事によって地質情報の重要性の理解が深まればと思います。

◆地震予知連絡会会長をしておられる茂木先生から「1995年兵庫県南部地震」が予測できたかについて論説をいただきました。3回にわたり掲載の予定です。「西日本には地震がない」というのは間違った常識と指摘されています。また、兵庫県南部地震は南海トラフの大地震の長期的な前駆的活動ではないかと指摘されており、次回以降の記事が待たれます。

◆地熱開発と環境問題について玉生氏がニュージーランドの例を翻訳しておられます。この記事の中で、ストロマトライトという言葉が使われています。地学辞典(地学団体研究会)によれば、ストロマトライトは炭酸塩岩とあり、この記事で紹介されている物は珪華とのことですから、ストロマトライト質シンターが正しいようです。

◆このほか、オマーン国の地質紹介、医療用X線CT装置の堆積物研究への応用、タイ国の鉱物資源、ライマン雑記(13)が掲載されています。ご一読下さい。(有田正史)

[追加・訂正]

・1997年7月号 no.515, p.54 本文左側最初に1行挿入
(追加)「地点にある涸渇した温泉が5月9日に再び自噴する」

・1997年7月号 no.515, p.58 本文右側下から17行目

(誤)「警備に」 → (正)「警備を」

・1997年7月号 no.515, p.61 本文左側下から2行目

(誤)「流化する」 → (正)「流下する」

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュース

第516号 1997年 8月号
定価¥785(本体価格¥748) 千実費

1997年8月1日 発行

編集

発行人

発行所

印刷

工業技術院地質調査所
株式会社 実業公報社
代表者 林 光生
株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8
Tel. (03) 3265-0951(代表) 〒102
振替口座 00110-6-32466
麹町局私書箱第21号
株式会社 ケイ・トゥー・ワン

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

© 1997 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。